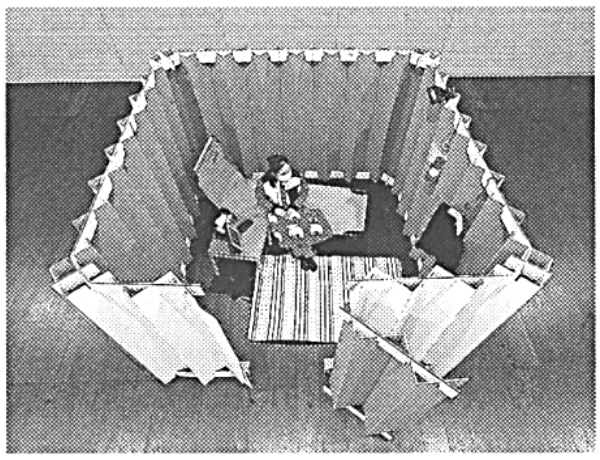
【　建設通信新聞　　令和２年７月１５日　】

特製間仕切りで3密回避

全国道の駅連絡会に群馬建協、全建協連が支援

九州の豪雨被災地に緊急提供

全国道の駅連絡会（石井裕会長）は、群馬県建設業協会（青柳剛会長）と全国建設業協同組合連合会（同）の協力支援を受け、２０２０年７月豪雨の被災者に、群馬建協が製品化した段ボール製間仕切り『ＫＡＭＩＫＡＢＥ〈かみかべ〉』を緊急提供する。15日に出荷し、被害のあった福岡、熊本、鹿児島各県内の道の駅に計１００セットを届ける。



ＫＡＭＩＫＡＢＥの設置イメージ

かみかべは、自然災害と感染症の同時対策に備えて考案した。避難所の3密対策やプライバシーの確保、ストレス軽減などを目的にデザインや使い勝手にもこだわった。約20分で組み立てられ、スペースも柔軟に変更できる。サイズは1辺2・1㍍の正方形で、高さは1・5㍍。避難所・避難生活学会が推奨する新型コロナウイルス対策の空間基準を満たす。

今回の緊急支援では、福岡県大牟田市と熊本県水俣市に各17セット、同芦北町に52セット、鹿児島県垂水市に14セットを送る。

青柳会長は「地域を守る建設業としての支援を形にして〝見える化〟したい。感染症対策をしっかりとしながら、避難を余儀なくされている方々の仮住まい生活の質が少しでも高まれば」と話す。複数の拠点に少量ずつでも配置し、状況に応じて近場で融通し合う備蓄方式が普及・定着するきっかけとなることも期待している。

同連絡会は5月、赤羽一嘉国土交通相に、道の駅第3ステージ（20―25年）におけるニューノーマルを見据えた進化を提言し、さらなる安心拠点としての機能充実を推進している。今回の緊急支援の取り組みも広く情報共有し、災害時の感染症対策への備えも促していく方針だ。

建設論評

残業を減らすには

政府が掲げる働き方改革では、長時間労働の上限規制、ずばり残業を減らすことが職場の喫緊の課題である。

その残業を減らすにはどうすべきか。これを大きな社会的な枠組みと、個々の職場の問題に大別して考えてみたい。

まず、建設の世界にはびこる工期至上主義を挙げよう。とにかく、わが国の工期厳守の徹底ぶりは際立っている。

工期を間に合わせるために少々の瑕疵（かし）はともかく、品質を厳守しようとして工期を遅らせることはあまり聞かない。

だから、工期を間に合わせるために残業、休日勤務、深夜勤の突貫工事を重ねる。その結果として、足を出した工事費を支払ってもらえる期待が出てくるのである。

不測の事態が起きると、現場はまず工期を取り戻して間に合わせる対策を立てる。かかる費用は二の次である。つまり、工期が必ず品質や価格よりも優先されるのである。

これはわが国特有の風潮のようだ。外国の建設現場では、不測の事態が起きると、現場はまず発注者に対して工期が遅れる口実を考えて正当化しようとする。

だから、日本の建設会社が海外の工事現場で、何事によらず工事を急がせる態度を現地人たちは理解できないようだ。日本人の監督員や作業員が最初に覚えるカタコトの怪しげな現地語は決まって「急げ」である。

韓国では「パルリパルリ」、中国では「クワイクワイ」、インドネシアでは「チパッチパッ」などと怒鳴り散らす日本人に、彼らは呆（あき）れた表情をあらわにする。

わが国の建設工事現場に定着している工期至上主義は、工期を決める発注者が認識を変えない限り変わらない。残業も減らない。

だから働き方改革を掲げる政府は、発注者に対して適正な工期の設定を徹底させることに意を注いでほしいものである。

その上で、職場で講じるべき方策を考えてみる。

第1に、上司の意識改革である。「いまの若い連中は、俺たちが若いころより楽をしている」と批判して、部下を過重勤務に追い込む上司の守旧的な意識を払拭（ふっしょく）しなければならない。

第2に、勤務に付随する責任の曖昧（あいまい）さの是正である。上司は部下に対して、与える仕事の内容と定時内勤務を前提にした完成日をその都度、明確に伝えた上で的確な勤務管理を行う必要がある。

第3に、勤務評価方法の確立である。直接的な労働は歩掛りなどで評価管理されるのに、調査、監督、計画などの勤務には、客観性と説得力のある方法がない。その結果、効率的な短時間勤務よりも冗長な長時間勤務が、評価につながる傾向がある。

第4に、労働負荷の不均衡是正である。特定の勤勉者に仕事が集中すると、勤務時間は長くなる。

第5に、同調圧力の払拭である。同調圧力とは、職場を支配する空気のことである。みんなが残業していると付き合い残業になる。

残業を減らすには、大きな枠組みにおける改革と個々の職場での改革が必要ということがわかる。それは、制度改革に加えて意識改革にも及ぶ。

一筋縄ではいかない奥深さがあることを、認識する必要があるのだ。

（小）

【　群馬建設新聞　　令和２年７月１５日　】

KAMIKABEで

群建協など

青柳会長

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は全国建設業協同組合連合会(同会長)および全国道の駅連絡会(石井裕会長）と連携して、令和2年7月豪雨の被災地へ段ボール製パーティションKAMIKABEを緊急提供する。送付するのは福岡県と熊本県、鹿児島県にある7つの道の駅。15日に出荷し順次搬入される。

送付先は各地の道の駅。福岡県は大牟田市にあるおおむた。熊本県は水俣市にあるみなまた。芦北町が◇たのうら◇大野温泉◇芦北でこぽん―。鹿児島県は垂水市のたるみずおよびたるみずはまびらとなる。

KAMIKABEは群馬県建設業協会が自然災害と感染症の同時発生に備えて6月に開発した製品。コロナ対策のための十分なスペースと約20分で組み立てられる簡易さなどが特徴。

豪雨被災地を支援

【　上毛新聞　　令和２年７月１５日　】

県建設業協会開発の間仕切り

豪雨被災地へ提供

九州を中心とした豪雨を受け、全国道の駅連絡会（東京都）は14日、県建設業協会が開発した段ボール製の間仕切り「ＫＡＭＩＫＡＢＥ」を、道の駅がある九州の被災自治体に提供すると発表した。避難生活の長期化が懸念される中、新型コロナウイルス感染症の対策に役立ててもらう。

福岡県大牟田市、熊本県水俣市、同県芦北町、鹿児島県垂水市に計１００セット提供される。いずれも道の駅の設置者となっており、各市町が開設する避難所で活用してもらう。間仕切りは15日に現地に向けて発送される。

間仕切りは従来から課題とされてきた避難所の環境向上に加え、感染症対策にも有効とされる設計で、６月に完成した。連絡会は「『３密対策』やプライバシーの確保など避難所の環境整備の一助としたい」としている。